令和３年度　第１回京田辺市健康づくり推進協議会【要点録】

日時：令和３年６月28日（月）午後２時～

場所：京田辺市保健センター　第一保健指導室

１　開会

２　会長挨拶

３　協議事項

（１）第2期健康増進計画・食育推進計画策定について

（２）その他

４　閉会

---------------------------------------------------------------------------------------------------

１　開会

委員委嘱、委員紹介

会長、副会長の選出

２　会長挨拶

３　協議事項

*【事務局】「資料１：第２期計画の基本的な考え方について」を説明*

【会長】食育というのは元々食生活に関わる内容で、健康増進と食育は政策的にも重複しているところがあり、今回はその部分を一本化するところが大きな変更点。

【委員】基本理念と基本方針、そこにぶら下がる事業というものは目的と手段の関係になっている必要があり、体系はできるだけわかりやすいものにする必要がある。

例えば、基本方針は「（１）生涯を通じた一人ひとりの健康づくり・食育を推進します」と「（２）社会全体（みんな）で健康づくり・食育を推進します」がメインになるが、この二つはよく似た表現になり、基本理念とどういう関係にあるのかがわかりにくいと思った。

また、計画の体系では、もう一回り大きな括りでまとめることもできるのでは。

【会長】基本方針（１）は個人に焦点を当てて自助を推進する。（２）の社会全体というのは共助・公助の部分。あと、計画体系は、国が示す分野を踏まえたもので、この分野というのはそのままの方がよいと個人的には思うが、どこを重点的に取り組むかといった点については、今後ご意見をいただければと思う。

【事務局】基本理念の「私が主役の健康づくり」を踏まえ、基本方針として「生涯を通じた一人ひとりの健康づくり・食育を推進します」を掲げた。一方で、共助・公助として社会全体で健康づくりを推進するような取組、特に京田辺市に住んでいるだけで自然に健康になっていけるようなものをつくりたいという想いもあり、基本方針を整理した。体系については、国・府に準じた分け方とした。

*【事務局】「資料２」健康づくり・食育に関する振り返り」背景、１）身体活動・運動、２）休養・こころの健康の説明*

【委員】指標「一日あたりの歩く時間が30分以上の人の割合」や「日ごろから意識的にからだを動かしている人の割合」、「週に２日以上運動する人の割合」、「運動習慣者の割合」はほぼ同じで、独立した指標になっていないように感じる。

【会長】これは国や京都府の指標を取り入れたものかと思うが、場合によっては運動習慣者の割合だけでもよいかもしれない。次期計画ではもう少し指標をわかりやすく調整したほうよい。

【委員】課題として「子どもの基本的な生活主観の形成や健康などに大きな影響を与える「メディア利用」への対策の検討・推進が必要」と挙げられているが、コロナ禍で特に重要な分野だと思う。

*【事務局】「資料：健康づくり・食育に関する振り返り」３）たばこ、４）アルコール、５）歯の健康、６）健康管理の説明*

【会長】「たばこ」と「アルコール」について、子どもでは現状が改善されている。しかし健診では受診率が伸びていない。

【事務局】女性のがんについては積極的にご案内したが、胃がん、肺がん検診については、職域での実施もあり、伸び悩んでいる。

【会長】どうしても対象によっては職域、学校保健とオーバーラップするところがあり、市の政策でダイレクトに何かというのは踏み込みにくい。子どもの健診も教育分野と常に連携を取りながらやっていかざるを得ないが、難しい部分もある。

【委員】各種がん検診の受診率が全国や京都府より低いが、この受診率は年齢などを調整して比較したものか。京田辺市は年齢層が若く、同じ受診率で比較すると低く出る印象がある。

【事務局】地域保健報告に準じており、年齢による調整は行っていない。

【会長】受診率が伸びていないのは大きな課題であり、受診率の比較についても精査して頂きたい。

*【事務局】「資料２：健康づくり・食育に関する振り返りについて」７）栄養・食生活、８）持続可能な食を支える食育の推進の説明*

【会長】食に関するところは、京田辺市では食生活改善推進員の方々の協力を得て、いろいろな取組を推進されており、引き続き、力を入れて進めていく必要がある。

【委員】食育は、幼稚園・保育所から小中学校、大人になるまで取り組むことが重要。だからこそ、市民のみなさんにわかっていただくように伝えてほしい。また、食生活改善推進員の活動については、コロナの中で料理を作ることができない代わりにまた何か違う面での取り組みをしたい。また、みなさんに計画などを知っていただくような広報も考えていただければ。

概要版について、思春期12～17歳で「自分で料理をし、バランスの取れた食事を摂りましょう」とあるが、これは「自分で食事をしてください」ということなのか。

【事務局】子どもさんが、自分である程度の基本のものは作れるというところをめざしているもので、大人が普段している調理というものは想定していない。

【委員】食育活動として、小学生を対象に料理をつくる取り組みをしているが、初めて包丁を持つ子がいれば、何も指示しなくてもできる子どももいて、個人差が大きい。今後は学校でももっとそういう機会を増やしてほしい。

【会長】ある地域では小学校などで子どもに農作業を体験してもらい、子どもたちが育てたものを給食の食材として使うことで、給食を残す子どもが少なくなったというケースもあり、全国色々なところで実施している。子どもに調理体験の機会を提供する取り組みももっと広げていければ。

「身体活動・運動」では、後期高齢になればなるほど座位時間は長くなり、国では身体活動・運動量の指針ではその点について踏み込んでいるので、そういう視点なども入れた方がよいのではないかと思う。

４　閉会